



## 【インタラクティブ部門クライテリア】

審査委員長 北風 勝 (博報堂 エグゼクティブクリエイティブディレクター/プランナー)

2014年度

「チャンスと勇気」

21世紀のデジタルメディアはそれまでのメディアでは決して実現しなかった素晴らしいアイデアを次々と可能にしてくれました。そして、発想豊かだけど発展途上な若い人たちにたくさんの「チャンスと勇気」を与えてくれました。今回、ACC賞に「インタラクティブ部門」をつくるにあたって、この「チャンスと勇気」を失わないようにしたいと思います。テレビCMとラジオCMとME部門のすばらしさとはまた違う、クリエイティブが未来に向かう可能性の大きさをより多くの人に示したいと思います。

ACC賞その他全部部門？

審査にあたって重視したいポイントは、“innovation” = 「革新性」や“invention” = 「発明」。つまり、過去と違うもの、誰も見たことのないものです。そこから何かが始まり、新しい世界が生まれるようなもの。ほとんどすべてのコミュニケーションがデジタルとなんらかの関わりを持つようになった今、アイデアが実現する場所は無限に広がっています。その広がりの中から、大きさに言えば従来の枠組みではほめられなかったアイデアをもれなく全部ほめる勢いです(笑)。

領域は「インタラクティブ部門」ですが、気持ちはACC賞「その他全部部門」です。

2015年度

もっとぐちゃぐちゃに？！

「領域はインタラクティブ部門ですが、気持ちはACC賞その他全部部門です！」

昨年、ACC インタラクティブ部門の審査委員長を引き受けるにあたって、このように宣言しました。クリエイティブが未来に向かう可能性をすべて引き受けるかのごとき大胆な方針です(笑)。初年度の審査はいい意味で混乱しました。皆が悩み、考え抜き、意見をぶつけ、摩擦しあい、全体としては予想外？の結果が出ました。

今年はどうでしょう。個人的にはさらに「ぐちゃぐちゃ」になってもいいのではないかと考えています。審査員たちが困るもの、悩むもの、あ然とするもの。そんなエントリーがあればあるほど、この部門の未来が見えてくると思うからです。

つい先日のことですが、私が尊敬してやまない大先輩(80代)が若いクリエイターにこう言いました。「矢を放つべき的はどこにだってある時代だろ！」

—そんな時代を体現した元気なエントリーをお待ちしています。



【インタラクティブ部門 審査講評】

審査委員長 北風 勝 (博報堂 エグゼクティブクリエイティブディレクター/プランナー)

「その他全部部門の行方」

インタラクティブ部門は、ACC その他全部部門。そして審査は「チャンスと勇気」を合言葉に未来のシーズを発見する会。今年は新たに2人の女性審査員を迎え、ミーティングや事前の顔合わせも盛り上がり、昨年にもましてさまざまな角度から興味深い審査ができたと思います。

「進化が長く続くもの」「奥行きがあるか?」「バズをゴールにする時代は卒業」「ちゃぶ台をひっくり返すようなもの」「どんな問題意識を持っているのか」「よくやったな、これ」「人がどう動いて何が達成されたのか」「シンプルにすげー!」「無駄な偉業もほめよう」……

これらはすべて違う審査員から出てきた言葉。まさにキーワードバトルです。

昨年なかなか崩せなかった「ゴールドの壁」は次々に突き破られました。スポーツビズ「Fencing Visualized」、大塚製薬「インハイ. TV」、ドワンゴ「リアル SUMOU」……そして、グランプリは4つ巴の戦いを制した「Perfume at SXSW」。リアルなライブ会場とバーチャル世界を自在に行き来する大胆なチャレンジが審査員の心をわしづかみにしました。

というわけで、その他全部部門の行方はACCの未来です。この部門、来年もお楽しみに!